



▲ツ抜けできれば上位の成績



▲取り込みは抜き上げが基本



▲キャストして小づいて止めるを繰り返して誘い、数をのばしていた



▲竹岡沖では底付近でアタることが多かった



▲食味はこれからますますアップする時期
▶アベレージは20センチ前後



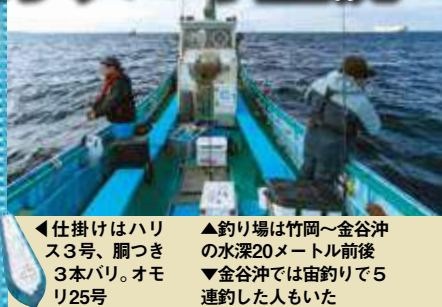
★当日最大は27センチ

撮影◎本誌編集部

内房上総湊港出船 群れが固まる盛期はもうすぐ 竹岡～金谷沖のカワハギ盛況



▲エサはアサリのむき身が支給される。追加は1パック500円



◀仕掛けはハリス3号、胴つき3本バリ。オモリ25号

▲釣り場は竹岡～金谷沖の水深20メートル前後
▼金谷沖では宙釣りでも5連釣した人もいた

(詳細は52ページ参照)
冬へ向けて水温が下がり群れが固まると今度は小型主体の数が釣りとなり、さらにアツイカワハギ釣りが楽しめるようになる。

関東のカワハギ釣り場の中でも激戦区とされる竹岡沖や、金谷沖のカワハギ釣りが盛り上がりを見せている。
取材した内房上総湊港の加平丸は、手バネのシャクリ釣りで狙うエビエサのマダイ釣りでも知られた船宿だが、秋～冬のもう一つの人気メニューがカワハギである。
当日は竹岡～金谷沖の水深20メートル前後を狙い、16～27センチのカワハギがトップ16枚。ワッペンと呼ばれる小型は交じらなかつた。
冬へ向けて水温が下がり群れが固まると今度は小型主体の数が釣りとなり、さらにアツイカワハギ釣りが楽しめるようになる。



◎内房上総湊港・加平丸
山田 孝一船長